

学習指導要領の「よりよい実施」を目指して

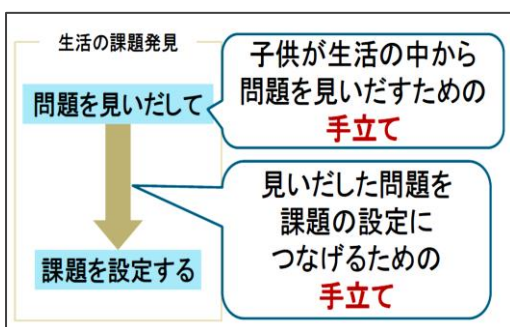
毎年2回、6月と11月に全国の家庭科担当の指導主事を対象とした協議会が行われます。今年度6月の熊谷教科調査官の講話の内容を紹介します。

令和4年度を振り返って、<◎学習指導要領の趣旨を踏まえ、資質・能力の育成を目指した取組が増えてきた><◎題材の学習過程を工夫し、実生活と関連を図った問題解決的な学習を取り入れた実践が増えてきた>との成果が見られた反面、<△「いかに新しい題材を開発するか」に力点が置かれ、学習指導要領の内容から外れてしまう実践があった><△教師が学習課題を設定し、子供主体の学習活動になっていない授業があった>という指摘がなされました。これに対しては、<■「資質・能力の育成」という点から目標や内容が理解されていないのでは><■問題解決的な学習のイメージがもてていないのでは>といった課題も提起されました。

現行の学習指導要領全面実施から、小学校は4年目を迎えています。学習指導要領の「よりよい実施」を目指し、上記の課題を解決していきたいところです。大切にしていきたいこととして、2点お示しします。

まずは、<●家庭科の目標、内容を常に確認しながら授業改善に取り組む>ことです。現行の学習指導要領解説では、右記のように表現されています。①が「目標」、②が「内容」、③が「題材構成のポイント」、④・⑤が「授業のヒント」となる箇所です。教科書にあるものをすべて扱うと考えるのではなく、学習指導要領解説を確認し、「資質・能力の育成」を目指した題材構成を進めてみてください。

- ① ~ねらいとしている
- ② ~できるようにする
- ③ 題材構成に当たっては~
- ④ 指導に当たっては~
- ⑤ 例えば~



すると、<●「問題を見いだして、課題を設定する」学習過程を充実させる>ことに繋がります。子供が「問題を見いだして、課題を設定する」ためには、先生の手立てが「カギ」となります。子供の実態、先生の願いや思いに寄り添いながら指導・助言し、子供主体の課題設定ができる授業改善を進めていくことで、学習指導要領の「よりよい実施」に繋がることを願っています。

浜松市教育委員会指導課 前田 浩平

中瀬小 5年「生活を支えるお金と物」

【実践内容】

本学習では、商品の選び方について考える活動を行った。

「調理実習でホットケーキを作る」という場面設定で、6種類のホットケーキミックスの中からどの商品を材料として購入したらよいかを話し合った。話し合いには Jamboard を用いて、班ごとにその商品の長短を付箋に書き、視覚的にも分かりやすくまとめた。その後、ホットケーキを購入する場面を複数想定して、場面ごとにどの商品を買いたいかを考えた。



【成果】

身近な題材を提示したことにより、どの児童も自分事として活動に取り組んでいた。また、Jamboard を用いたことで、同じ班の友達の見解を共有しながら話し合いを行うことができた。さらに、友達の見解とつなげて考えを発表する姿が多く見られた。後半の活動では、場面ごとに購入の視点が異なること、それに伴って購入する商品も変わること気付いていた。学習の振り返りでは、「場面に合った商品を考えて選ぶと思った」「わたしはやはり、値段を大事にしたい」「商品には、たくさん種類があることを知った。いろいろな情報を見て買い物をするのが大切だと思った」等の記述があった。



↑ Jamboard を用いたグループ活動の様子

(文責：鈴木悠莉那)

光明小 5年「ソーイング はじめの一歩」

【実践内容】

家庭科の製作活動は、経験の有無による個人差が大きく、全体指導が難しいと感じる。特に本単元は、針や糸を初めて扱う児童が多く、進度に差が出たり、つまずいたりすることが予想される。そこで、本校では以下のように指導を工夫して取り組んだ。

(1) 保護者ボランティアの協力

CS 担当と連携を図り、保護者ボランティアを募った。玉結びや玉止め、なみぬい等、苦手な児童に寄り添って手本を見せてもらったり、アドバイスをもらったりした。

教員一人では対応が難しい個の悩みや課題に、迅速に対応してもらうことができた。

(2) タブレットを使用した動画活用

個人でタブレットを使用し、教科書にある QR コードから、針や糸の扱い方、縫い方に関する動画を読み込み、個人で見ながら作業ができるようにした。



【保護者ボランティア・タブレット活用の様子】

【成果】

ボランティアによる協力があることで、児童の悩みや困り感に迅速に寄り添い、個に応じた支援をより丁寧に行うことができた。動画は、巻き戻したり、一時停止したりすることができるので、児童が自分で困り感を解決できるようになった。そのため、大きな進度の差は少なくなった。

(文責：松下美沙枝)

第3回研修会 授業研究の見どころ

10月25日（水）14時より、第3回研修会を行います。今回は2つの会場に分かれて、授業を参観します。1～4部会は芳川小学校、5～8部会は和地小学校へ御参加をよろしくお願いいたします。

<1～4部会>

6年「自分の生活をレベルアップさせるためのオリジナルバッグを作ろう」
芳川小学校 杉本朱里 教諭

本題材は、児童が主体的に取り組めるように、題材を通して「今の自分の生活をよりよくする」という目的を明確にもたせています。授業の導入時には、自分の生活をしっかりと振り返らせ、どのような袋があると、より自分の生活が豊かになるのかを考えさせることによって、オリジナルバッグの必要性を感じられるようにしています。

また、題材計画では、最初に基本的なトートバッグを製作し、オリジナルバッグ作りに生かせそうな技を集めていきます。そして、集めた技を生かして、それぞれの目的に合ったオリジナルバッグの製作へとステップアップしていきます。一人では活動を進めることが困難な児童も、最後まで諦めずに取り組むことができるように、グループでサポートし合えるような環境設定をしていきます。ソーイングが得意な児童も苦手な児童も、学ぶことを楽しみながらオリジナルバッグを製作していけるように、展開を工夫した題材です。

<5～8部会>

5年「生活を支えるお金と物 ～エシカル消費を考えた買い物計画～」
和地小学校 大谷彩乃 教諭

題材名「生活を支えるお金と物」で、浜松市くらしのセンターで作成した小学校家庭科消費者教育教材「筆箱を選ぼう」を使用して授業を行ったことがある先生方も多いのではないのでしょうか。昨年度から、環境という視点を加えることができる筆箱が追加されました。研究授業では、これを含めた4つの筆箱について考える授業を公開していただきます。小学校学習指導要領（平成29年告示）解説では、身近な物の選び方として、「持続可能な社会の構築の視点から、環境に配慮されているか」、「資源の有効利用を考えて選ぶことも大切であることに気付くようにする」と明記されています。本時では、児童が、環境も含めた多様な観点から比較してよりよい筆箱について考えることを目標としています。

【編集後記】

実践紹介では、Jamboard を活用して活発な話し合いをしたり、ボランティアの協力を得て個に応じた手厚い支援をしたりと、今後に生かせる工夫がたくさんありました。第3回家庭科研修会の授業研究は、1学期から計画を立てて、児童が主体的に取り組める授業の準備を下さっているので、期待が高まります。

庄内小学校 原田 佳代子